

不整脈からくる脳卒中

脳梗塞・脳卒中というと単純に頭の病気と考えがちですが、その 1/3 くらいは心臓が原因であることをご存知でしょうか。それは、心房細動という不整脈が原因なのです。

心房細動は心房という部屋が痙攣(けいれん)を生じる病気で、心房の収縮が悪いために血液循環が滞り血栓(血の塊)が出来やすくなります。

これが心臓から離れて(飛んで)、脳の血管に詰まるのが心原性脳梗塞という病気です。

通常の脳梗塞と同じように、呂律(ろれつ)が回らない・言葉が出ない・手足に力が入らないといったものから意識障害まで症状はさまざまです。

心臓以外が原因の脳梗塞(アテローム硬化・ラクナー梗塞)と比べて重症化しやすく死亡率も高いです。ひとたび発症すると半分近い方が寝たきりかそれに近いような状態になるという報告もあります。

前巨人軍監督の長嶋茂雄さんや小渕恵三元首相、サッカー元日本代表監督の伊ビチャ・オシム氏もこの病気で倒れられたとされています。

心房細動は、60歳をこえると急に増え始め、70歳代で5%前後、80歳代では10%前後にみられる不整脈です。

弁膜症や先天性心疾患、虚血性心疾患など心臓に病気をお持ちの方ばかりでなく、生来健康であった方でも突然この不整脈になってしまうことがあります。

心房細動になると脳梗塞の危険性は約6倍に増えるとされており、糖尿病・高血圧・心不全・高齢の方や脳梗塞にかかったことのある方では、その危険性はさらに増すとされています。

動悸(どうき)や息切れ・胸の痛みなどの不整脈の症状を自覚する場合がありますが、何も症状のない方も多いのが心房細動の怖いところでもあります。

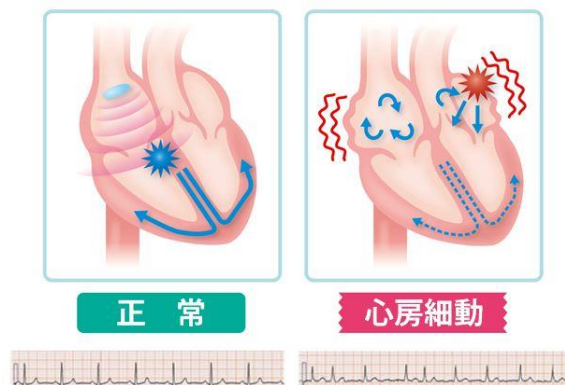
持続する心房細動であれば、心電図をとるだけで直ぐに診断がつかます。時折心房細動がみられるような方では24時間心電図検査ではつきりする場合があります。

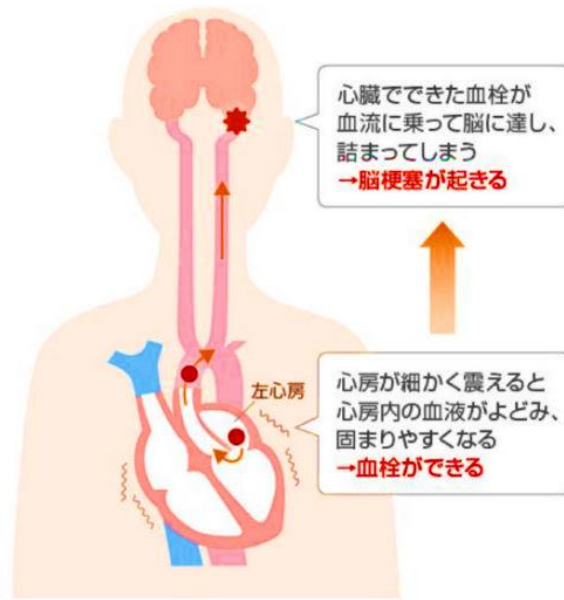
簡単なチェック方法としては、脈をとってみて、脈が不規則に乱れていたり、速くてわかりにくいなどの場合は心房細動の可能性があります。

治療としては、血液をサラサラにする抗凝固薬を中心とした治療を行います。心房細動そのものを治す・防止するために抗不整脈剤を服用したり、カテーテルという細い管を使用して電気の通り具合を調整する手術を行う場合もあります。

病状や病型、お持ちの病気、年齢などにより治療法はさまざまですが、何よりも血栓が出来てしまう前に早めに治療を開始することが大事になります。

動悸がする・脈が乱れる・不整脈と言われたことがあるといった方は、かかりつけ医でご相談頂くことをお勧め致します。





【循環器内科診療部長 村岡 理人】

